



調布市は
「2050年ゼロカーボンシティ」
を目指しています

調布市雨水管理総合計画-概要版-

令和8年3月

調布市 

調布市雨水管理総合計画説明書-概要版-

1 雨水管理方針

1.1 計画策定の背景と目的

市では、これまで下水道や雨水の流出抑制に寄与する浸透施設の整備を進めてきましたが、令和元年東日本台風では染地地域を中心に浸水被害が発生しました。また、近年の気候変動による豪雨の増加等により、浸水リスクはより一層高まっています。このような状況に対して、従来の個別施設による対策から、流域全体で協働して治水を行う「流域治水」へと方針を転換し、浸水リスクをふまえたハード(施設整備)とソフト(避難体制など)を組み合わせた総合的な対策が求められています。

「雨水管理総合計画」は、今後限られた予算の中で、期間を定めて集中的に整備を進めると同時に、市民、民間事業者とともに地域の実情に応じた浸水対策に取り組むことを目的として策定しました。

1.2 計画期間と対象区域

調布市雨水管理総合計画は、短期計画を12年間(令和8年度～令和19年度)、中・長期計画を30年間(令和37年度まで)の計画期間とします。

市の下水道区域は、行政区画から多摩川河川敷、野川、仙川を差し引いた約2,037haを全体計画区域としており、また資産・人口等も同範囲に分布していることから、下水道区域を検討対象区域とします。

1.3 これまでの施設整備状況

■下水道施設の取組状況

市の公共下水道事業は、50mm/hr(年超過確率1/5規模相当)で整備をしており、昭和62(1987)年度末には下水道普及率100%になりました。

■流域治水の取組状況

市ではこれまでに、毎年浸透施設等の整備を進めており、調布市下水道ビジョンに掲げている令和19年度の目標値である浸透量202,000m³/h(10mm/hr相当)に対して、令和5年度末時点での浸透量は130,560m³/hです。

2 段階的対策方針

2.1 重点対策地区の設定結果

シミュレーションの結果、浸水深1m以上とリスクが最も高い地区を含む処理区を重点対策地区に選定します。

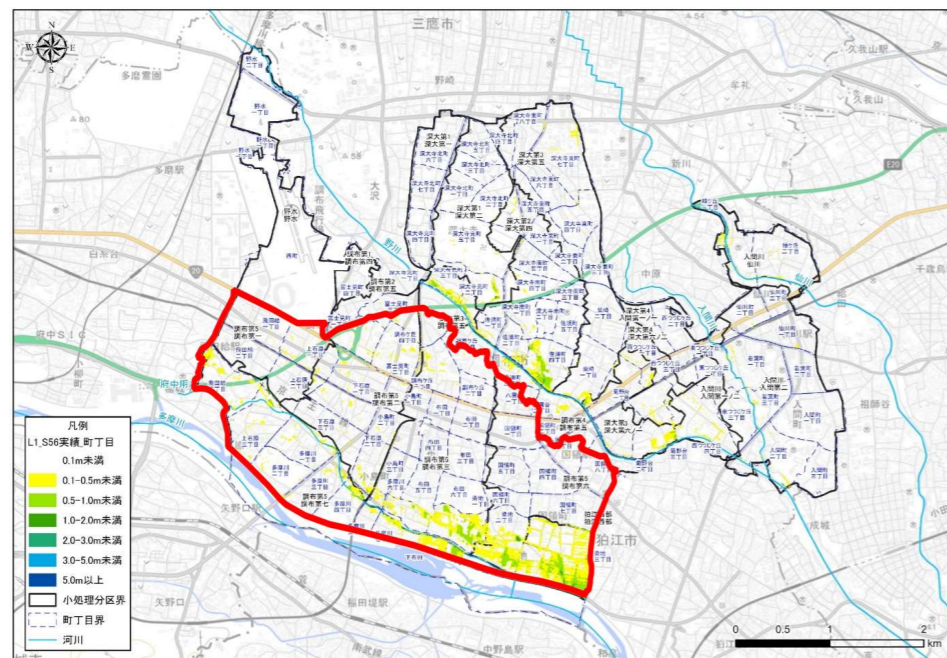


図 2-1 浸水シミュレーション結果(L1降雨, 外水位あり) (太赤枠は、重点対策地区)

2.2 段階的対策の取組方針

段階的対策目標として、外水位の影響がない計画降雨(L1)に対して、短期および中・長期における対策では排水能力の確保と被害の軽減を主眼とし、短期は床上浸水の解消を中・長期は床下浸水の解消を図るものとし、さらに最終段階では多摩川水位が上昇した場合に対しても浸水解消を図るものとします。

表 2-1 段階的対策の取組方針と市域全域での流域対策10mm/hrを見込んだ場合の必要対策量

対象降雨	短期対策 ※外水位の影響なし	中・長期対策 ※外水位の影響なし	最終 外水位=※H.W.L(計画高水位)
計画降雨 L1降雨 65mm/hr	床上浸水解消 (浸水深50cm未満にする)	床下浸水解消 (浸水深20cm未満にする)	浸水解消(被害なし)
照査降雨 L1降雨 91mm/hr			床上浸水解消 (浸水深50cm未満にする)
照査降雨 L2降雨 153mm/hr	安全を確保した避難計画の確立及び実行		
主な 対策方針	「流す」取組 流域治水による雨水流出抑制の促進(貯める・浸み込ませる取組)		「流す」+「貯める・浸み込ませる」取組
必要対策量	約5千m ³ の浸水削減が必要 (流す取組で対応)	約7千m ³ の浸水削減が必要	約35万7千m ³ の浸水削減が必要 ※L1降雨への必要対策量

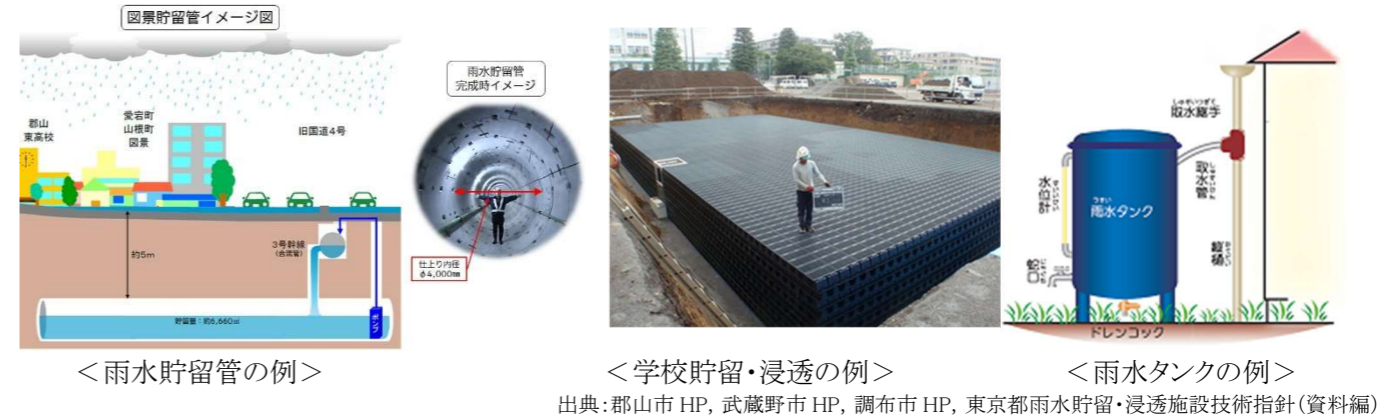
※計画降雨(L1)は、東京都豪雨対策基本方針と整合を図り、流域治水10mm/hrを除いた65mm/hr(年超過確率1/20規模相当)

※照査降雨(L1')は、調布市内の既往最大降雨(平成17年9月豪雨・ゲリラ豪雨)である91mm/hr

※照査降雨(L2)は、水防法で定めた関東地区における想定最大降雨(年超過確率1/1000規模相当)153mm/hr

※外水位(河川水位の条件)は、計画降雨(L1)、照査降雨(L2)については、内水ハザードマップと同じ条件、照査降雨(L1')については、「調布市における既往最大降雨(平成17年9月6日)」の実績水位。

■貯める取組(調節池, 雨水貯留管, 学校(校庭)貯留, 雨水タンクの設置…)



■浸み込ませる取組(道路・公共施設等の浸透化, グリーンインフラの活用, 農地の保全, 浸透ます・雨庭の設置…)



■流す取組(流下能力を増強する下水道の整備, ポンプ施設の整備, ふろ水を賢く流す…)

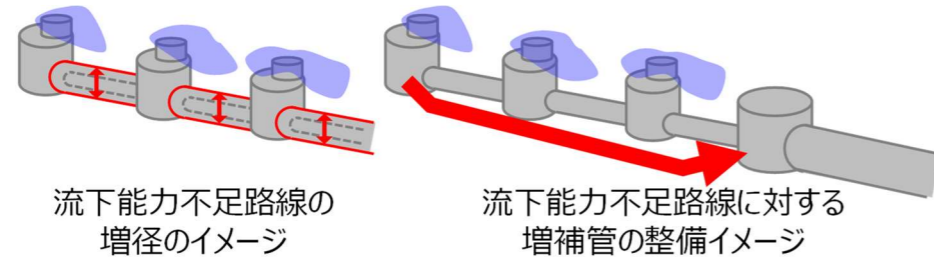
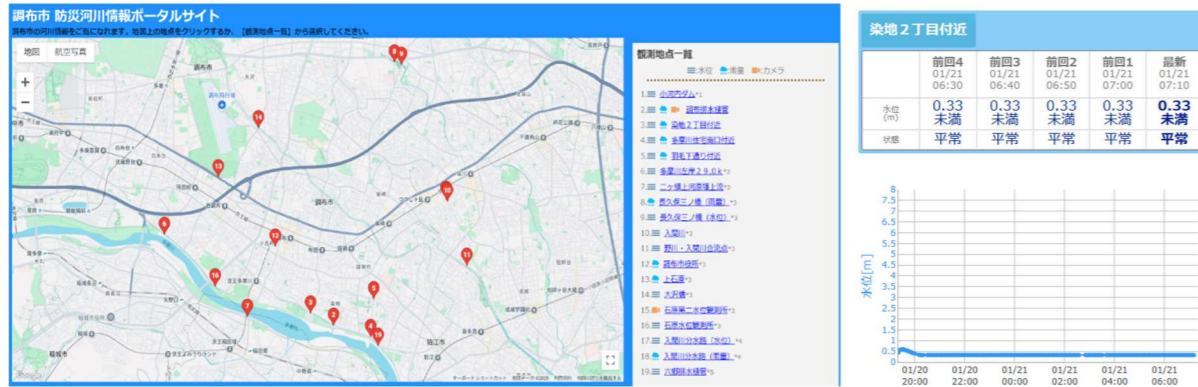


図 2-2 流下能力不足路線に対する増補・増径管の整備イメージ

■安全を確保する取組

(ハザードマップの作成, 水害リスク情報の公表, 降雨・水位等の周知, 避難指示発令基準の明確化, 避難訓練…)



出典: <https://chofu.bousai-bec.jp/>

<水害リスク情報, 降雨・水位等の周知例>

表 3-2 対策主体ごとの取組

段階	対策主体	対策	目標	
短期 (~R19年度)	公共	ハード対策	増補管の整備, 管の入替え(下水道)	約 2.7km
	民間	ハード対策	浸透施設の整備	10mm/hr 相当
中・長期 (~R37年度)	公共	ハード対策	貯留施設の整備(下水道)	約 7千 m3
			増補管の整備, 管の入替え(下水道)	必要に応じて
			浸透施設の整備(公共施設)	4.2mm/hr 相当
	民間	ハード対策	浸透施設の整備	19.0mm/hr 相当
最終 (~57年度)	公共	ハード対策	貯留施設の整備(下水道)	約 7万 m3
			浸透施設の整備(公共施設)	8.8mm/hr 相当
	民間	ハード対策	浸透施設の整備	29.1mm/hr 相当
各段階に 共通	公共	ソフト対策	民間の貯留浸透を促進するための補助事業 浸水対策の取組状況の見える化 ハザードマップの作成 水害リスク情報, 降雨・水位等の周知 避難指示発令基準の明確化	
	民間	ソフト対策	ふろ水を賢く流す	
	公共・民間	ソフト対策	避難訓練の実施	

3.2 民間による対策

市民や民間事業者は流域治水による流出抑制を推進, 対策基準を強化します。

流出抑制対策の具体的な内容としては, 雨水タンクなどの貯留施設や浸透ますなどの浸透施設の整備等による雨水流出抑制や, グリーンインフラの導入等のハード対策があります。

また, ハード対策と並行したソフト対策としては, 円滑に排水する取組として大雨時にふろ水を排水するタイミングをずらすことや, 安全を確保する取組として避難訓練の実施などの取組があります。

表 3-3 民間による流域治水による流出抑制目標量

対策	段階	目標
浸透施設・貯留施設の整備	短期(~R19年度)	10mm/hr 相当
	中・長期(~R37年度)	19.0mm/hr 相当
	最終(~R57年度)	29.1mm/hr 相当

3 段階的対策計画

3.1 対策の概要

段階的な対策についてまとめた結果を表 3-1 に, 対策主体ごとにまとめた取り組み内容を表 3-2 に示します。

表 3-1 段階的対策のまとめ

対象降雨	短期対策 (~R19年度) ※外水位の影響なし	中・長期対策 (30年後・R37年度) ※外水位の影響なし	最終 (50年後・R57年) 外水位=※H.W.L (計画高水位)
計画降雨 L1降雨 65mm/hr	床上浸水解消 (浸水深50cm未満にする)	床下浸水解消 (浸水深20cm未満にする)	浸水解消(被害なし)
照査降雨 L1'降雨 91mm/hr			床上浸水解消 (浸水深50cm未満にする)
ハード対策	「流す」 下水道管の整備: 約2.7km ・増補管の整備 ・管の入れ替え	下水道管の整備: ・増補管の整備 ・管の入れ替え	
	「貯める」・ 「浸み込ませる」	増補管と流域治水の対策不足分に対して 貯留施設の整備: 約7千m ³ ・下水道貯留管の整備 浸透施設の整備 (公共施設) ・公共側で4.2mm/hrの浸透施設	増補管と流域治水の対策不足分に対して 貯留施設の整備: 約7万m ³ 浸透施設の整備 (公共施設) ・公共側で8.8mm/hrの浸透施設
ソフト対策	民間側で10mm/hrの浸透施設	民間側で19.0mm/hrの浸透施設	民間側で29.1mm/hrの浸透施設
	流出を抑制する取組: [公]民間の貯留浸透を促進するための補助事業 円滑に排水する取組: [民]ふろ水を賢く流す 安全を確保する取組: [公]ハザードマップの作成, 水害リスク情報, 降雨・水位等の周知, 避難指示発令基準の明確化 [公・民]避難訓練		

■民間におけるソフト対策

民間によるソフト対策の方向としては, 豪雨時のふろ水排水等の家庭排水の抑制や避難支援計画, 避難訓練等の避難方策への取組が考えられます。

■民間の整備を促進する市や都の助成制度(ソフト対策)

開発事業を除き, 民間の貯留・浸透は公共の助成制度を活用した促進を図ります。



<雨水タンクや浸透施設の整備による下水管に余裕が生じます>

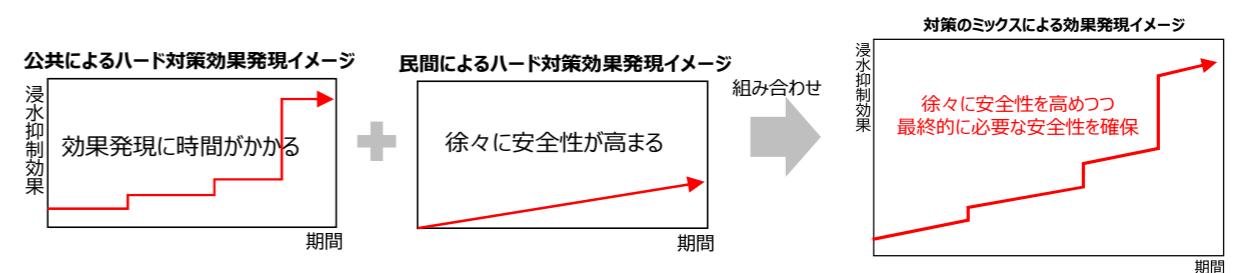


図 3-1 公共と民間による対策の組み合わせによる効果発現イメージ

3.3 公共における短期対策

短期対策は、計画降雨(L1・河川水位なし)の場合における床上浸水の解消(浸水深 50cm 未満)を図るため、流下能力不足路線の入れ替えまたは増補管の整備を行います。

また、ストックマネジメント事業による老朽管の改築 1.3km により、管きよの健全化と同時に流下能力を確保します。

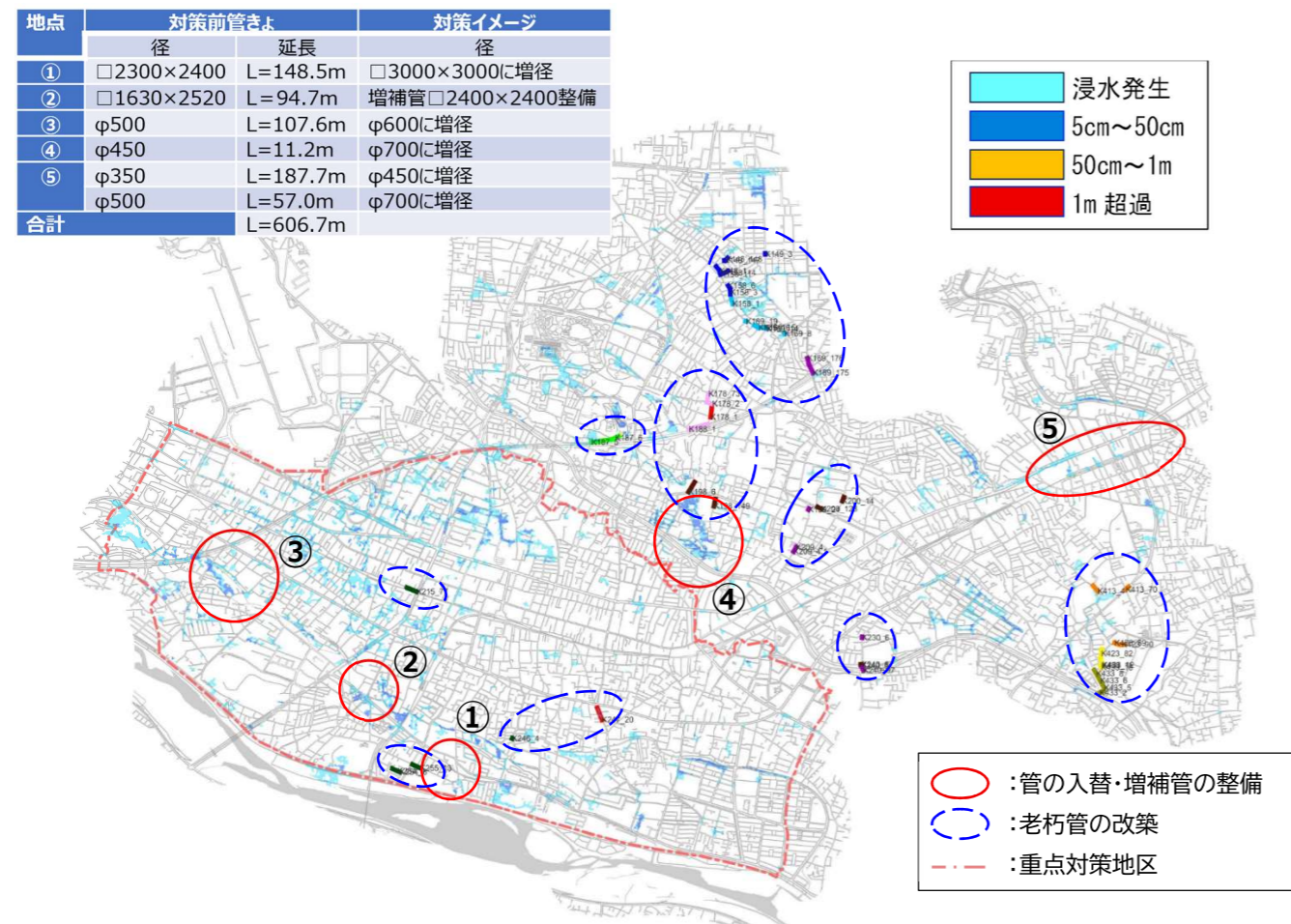


図 3-2 短期的対策実施地区(L1・外水位なし)

3.4 公共における中・長期対策

中・長期対策は、計画降雨(L1・河川水位なし)の場合における床下浸水の解消(浸水深 20cm 未満)を図るために、浸透貯留施設の整備を行います。床下浸水となっている浸水深 20cm 以上の浸水量は市域全体で 6,912m³ で、特に重点対策地区に多く優先的な対策が必要となります。

貯留施設としては、道路下に整備する貯留管や公共施設の敷地内に整備する地下貯留池等の整備が考えられ、流下能力不足の改善に向けた整備と組み合わせて効果的な対策を行います。

短期対策の進捗状況を見定めて改めて、計画します。

3.5 最終段階

対策の最終段階は、計画降雨(L1・外水位あり)において浸水解消(被害なし)を、照査降雨(L1')においては床上浸水解消を目指します。

この条件においては、河川水位が高く下水道管から河川への放流が困難となるため、市街地に降った雨の多くが低地で溢水します。また、流域治水としての貯留・浸透施設の整備についても想定されるポテンシャル全量を見込みますが、河川への放流が困難であることから、下水道においては雨水貯留管などの貯めるための貯留施設の整備が主な対策となり、必要となる貯留量は市域全体で約 7 万 m³ です。

3.6 浸水対策の取組状況の見える化

浸水対策は民間との協働が不可欠であるため、取組状況の見える化を行い、対策の促進を図ります。

取組状況の見える化として、流域対策(浸透・貯留量)の進捗の明示・公表や、流域対策の総量を、例えば『(仮称)調布里山ダム』と名付けてダムに見立てた貯留可能容量を公表する等を実施します。

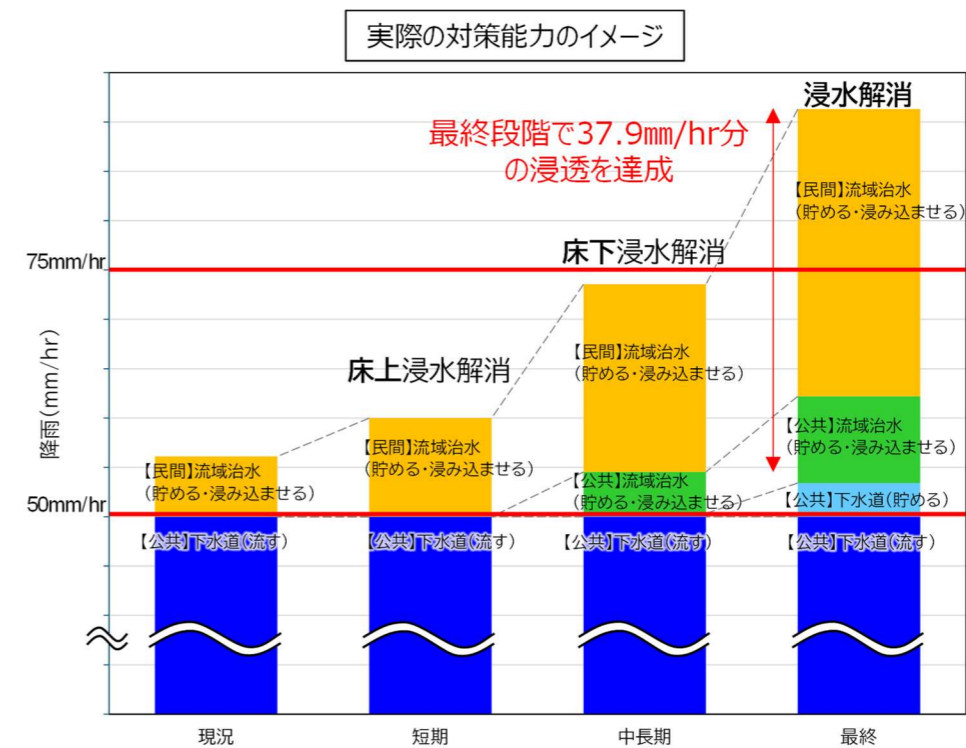
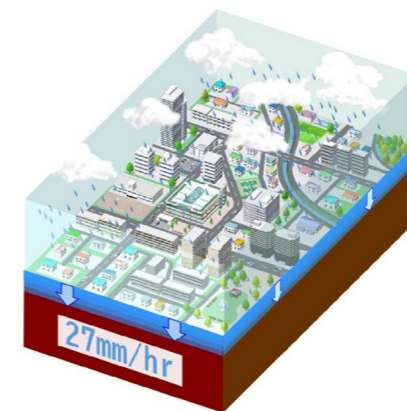


図 3-3 段階的整備のイメージ



1時間当たり 27mm 分の雨が地下に浸透
出典：世田谷区豪雨対策基本方針

令和〇年度時点での貯留可能容量
1時間当たり〇〇mm分
= 〇〇〇m³相当
(井の頭恩賜公園 井の頭池貯留率〇〇%)

イメージ

図 3-4 ダムにみたてた対策容量公表イメージ

刊行物番号
2025-241

調布市雨水管理総合計画-概要版-

発行日 令和8年3月

発行 調布市

編集 環境部下水道課

〒182-8511 調布市小島町2-35-1

電話 042-481-7228~7231

FAX 042-481-7550

E-mail gesui@w2.city.chofu.lg.jp

